



山口調理製菓専門学校長 須内章雅  
Sunouchi Akimasa

## ○ おも・たの

今まで9年間 KOCHO だよりを書き続けてきましたので、これから記述する内容にかつてのものを再活用する場合があります。学生たちに伝えたい内容などは共通のものがあります。このたび出会った人たちはみんな初対面なので再活用も多くなると思います。これまでも読んでいただいていた人、ご了承ください。今回は「面白い」と「楽しい」です。一例です。スポーツの分野でこれから試合に臨もうとしている人がインタビューを受けて、ときどき「楽しんできたいと思います。」とコメントする場面がありますね。これは緊張感をほぐして自分の力を存分に発揮したいという思いの表れであろうと思います。違う場面です。私の孫は今幼稚園児ですが、広告の裏や地面などにいろいろな絵(プリキュアシリーズが多い)を描いて存分に楽しんでいます。



小・中・高校(専門学校も含めて)の授業、特に“座学”などを楽しんで受けることができる児童・生徒・学生はどれくらいいるでしょう。小学校低学年の子たちは全員思いっきり楽しんでいますね。成長していくにつれ楽しむ余裕を忘れていく人も多いことでしょう。中には楽しむどころか“苦行”と感じていく人もいることでしょう。教科によっては私もそのうちの一人です。

次に、「面白い」ということばはどんなときに遣うでしょうか。美術・造形の世界では「この作品は面白い。」というように遣うことがあります。「趣おもしろがあるとか、斬新なアイデアだ」などという肯定的な意味で遣われます。私は文系の人間ですが、理系の世界でもよく遣われると思います。「この数式の理論は美しさを感じて面白い」という感じでしょうか。話が少しそれますが、少し前「ドリーム」という映画を観ました。宇宙船の地球帰還への道筋を数学力を駆使して導き出すというような内容です。私は数学の面白さをしっかりと感じました。

私はかつて専門外である国語の授業を担当(無免許ではなく、教育委員会に申請した臨時免許で)したことがあります。規模の小さい学校ではよくあることですが、高校入試5教科の一つですから教材研究には大きなプレッシャーを感じながら夢中で取り組んでいました。すると3年目くらいにはかつて面白くないと思っていた“文法”が面白くなりました。ことばの遣い方や変化などに魅了されたのです。そのためか、このたよりでもことばについて取り上げることが多くあります。専門的に学んだわけではないので私独自の解釈の場合もあります。いわゆる「個人の感想です。」というところでしょうか。

さて、「面白い」と「楽しい」ですが、意味は似ているようでいて少しニュアンスは違うと思います。遣い比べてみます。「楽しいとはいえないけれど、面白い。」ということがあると思います。それに対して「面白くはないけれど、楽しい。」ということは無いように私は思います。勉強・学習は時に楽しいとは言えない場面もあると思います。しかし、その中に「面白さ」は見つかると思うのです。このたび出会った学生の皆さんには是非とも「面白いこと」を見つけて欲しいと願う次第です。

## ○ 自校自賛

3月下旬に初めて本校に来たとき、真っ先に目にしたのは花壇です。美しく咲いていました(現在進行形)。また、手入れも心がこもっていると感じました。そんな環境の中に私も少し貢献したいと、メダカなどを引っ越して来させました。ちょっとした癒やしになれば嬉しいです。



園児たちも楽しんでいます。



月桂樹 カレーなどにいれるとランクアップ



ブロッコリーの花



よろしく! 四万十の貝もいます。